

第4回酒田市総合計画審議会産業部会会議録

日 時 平成19年5月17日(木) 午前10時00分～午前11時35分

会 場 酒田市役所 第三委員会室

◎出席者

・部会長

齋藤 成徳

・委員

齋藤 藤八 星川 功 日下部仁司 武田 恵子

・欠席委員

富樫 秀克 中瀬 義秋 佐藤 敏一 池田 正昭 佐藤 吉雄

・事務局職員

松本 恭博 平向與志雄 阿部 雅治 前田 茂実 後藤登喜男

佐々木雅彦 羽根田 篤

菅原 信二 後藤 重明 阿部 勉 菊池 裕基 熊谷 智

大谷 謙治 前田 茂男

協議日程

部会長あいさつ

1. 開 会

2. 協 議

(1) 酒田市総合計画第1次原案(施策の大綱)について

(2) 同(重点プロジェクト)について

(3) その他

3. その他

4. 閉 会

開会 午前 10時00分

部会長あいさつ ・ 1. 開 会

○事務局（菅原信二） 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
それでは部会長より開会をお願いします。

○会長（齋藤成徳） 今日はお忙しいところ誠にありがとうございます。欠席者がかなり出てしまいましたが、4月27日の第4回の総合計画に示されました第一次原案について、委員の皆様から全体事項についてご意見をいただきました。今日は内容の濃い会にしていきたいと思えます。只今から産業部会を開会いたします。本日の欠席は、富樫秀克委員、中瀬義秋委員、佐藤敏一委員、池田 正昭委員、佐藤吉雄委員の5名が欠席ということで連絡が入っております。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。それでは次第に沿って会議を進めます。

2. 協 議

○会長（齋藤成徳） それでは、早速次第にしたがって会議に入らせていただきます。はじめに協議事項の（1）酒田市総合計画第1次原案（施策の大綱）について、産業部会に関する事項について説明をお願いいたします。

○事務局（阿部雅治）

資料説明。 ー 省略 ー

○部会長（齋藤成徳） ありがとうございます。今第一次原案の骨子だけご説明をいただきました。説明いただきましたことについて、皆さんからご質問ございませんでしょうか。

○委員（武田恵子） 基本的に書いてあることが、このように実施されればありがたい。ぜひ、実施していただけるようお願いしたい。という気持ちでいます。こんなに良いことが書いてあって、実現出来なければ絵に描いた餅になる。原案は大賛成です。雇用の安定対策と確保ということで、若者の就職状況、再就職、企業誘致、地場産業の育成とあるので、この辺の見通しはどうか。昨年の今ごろより良くなっているのか。今後の見通しとしてはどうなのか。実現の見通しはいつごろか。10年の計画とはいえ、いつまでも放っておくと18歳が28歳になってしまう。鉄は熱いうちに打て。若者の過労死が増えていると聞きました。若者に限らず中年の過労死が非常に多いと感じているので、民生部会では健康診断に行く暇がない

のではないかと言う発言をした。就労環境としてどのような行政の働きかけができて、これから改善の見通しがあるかどうか。子育て支援を含めた就労環境の充実ということで、意欲を持った女性が就業を継続できる体制づくりというのは、行政が呼びかけて簡単にできるわけではなくて、地域住民もそういう意識でやっていかないと女の人に負担がかかって、働けなくなっていくのではないかと思います。そんなことを言うとむずかしいのですが、家の中の理解、協力と地域の皆さんの協力、理解がなければ子育てしながら、働き続けるのはたいへんなことだと思います。女性の労働力は、非常に貴重ですので、そういうことができる啓発活動を行政だけでなく皆でできれば良いと思っています。企業誘致のことで家庭訪問していたら、関西から来ている企業の家族の方がこんな良いところはないと酒田を誉めてくれました。転勤で3年で帰らなければいけないけれども、お願いして残ったという、酒田を好きになってくれた人の言葉があるのですが、そういうものを私たちは誇りに思っアピールしていけば良いのではないかと思います。その会社は遊佐町にある。遊佐町にあつて酒田市に住んでくれたから、酒田市を好きになってもらった。北庄内も好きだし、庄内も好きだし、飛島も山形県もすべて回って、良いと言ってくれているので、そういう企業を酒田に持って来れないだろうか。

○商工港湾課長（佐々木雅彦） 雇用環境の見通しは、有効求人倍率が3月末で0.65、ほぼ前年並みの有効求人倍率で横ばいの状況なのかなと思っている。有効求人倍率は、求人数と求職者数の割合ですので、求職者数は減ってきていますが、求人数も若干減ってきているので、その辺が上がっていかないという状況になっている。新規学卒者の就職状況についても前年より上がっていますので、若干ですが少しずつ良くなっている状況にあるだろうと思っている。雇用の場は企業の経済活動の中で発生するものですので、企業の経営が安定していかないと雇用に結び付かないとことがあるので、企業活動に対する支援を継続してやっていく必要があろうかと思います。就職内定率は高くなってきているが、地元定着率が低い。酒田の場合は県外に出て行く子どもたちが多い。新規学卒者に対する求人は多くなっていますが、まだまだ同じような努力をする必要がある。若者の過労死については、就職の業務内容の話だと思うが、各企業の業務内容について行政が入り込むのはむずかしい。市役所に若者就職支援センターがあり、就職した後の若者の相談業務に取り組んでいる。ニートの相談についても行っている。平成16年度から開設していますが、1,800から1,900件の相談がある。この施設を企業訪問しながらPRしていますが、PRを強化しながら苦しいときに相談をしていただく窓口として活用していただければと考えている。女性の就労環

境は行政だけではむずかしいだろうという話があったがまったくそのとおりです。家族や地域がバックアップしなければ、子どもを生み育てながら働くのはむずかしいのではないかと思います。産業部門で考えなければならないのは、働く環境の充実が必要なのだらうと思う。それに合わせて、地域なり家族の理解を得られることで働けると思います。育児休暇などさまざまあるわけですので、30人以上の企業は、法律で定められていますので、職場環境の改善については、今後、行政としてPRしていくというように考えています。

○企業誘致対策室長（杉原 久） 庄内全体がすばらしい地域資源を持っているということに関西から来られた方が感じられて、勤務の延長を希望されたと思います。すばらしい地域資源がある酒田に立地していただきたいと思いますが、多くの企業の方に知っていただき、ぜひ酒田に企業立地を進めていただけるように力を入れていきたい。

○部会長（齋藤成徳） さらに踏み込んだ議論は、次の重点事項の説明がありますので、これが終わった後、それぞれにご質問をいただくことにしたいと思います。重点プロジェクトについて説明をお願いいたします。

○事務局（阿部雅治）

資料説明。 — 省略 —

○部会長（齋藤成徳） 事務局から重点プロジェクトの産業創造プロジェクトと全体的事項の2つについて説明をいただきました。最初に産業創造プロジェクトから意見をいただきたいと思います。皆さんから意見はありませんでしょうか。

○委員（齋藤藤八） 計画には大賛成です。具体的に実現するためにどこをどうしていくかという具体性が見えないようである。例えば、格差社会が問題になっていますが、中山間地ではデジタル放送の問題、情報化の格差を無くするとすれば、それなりの設備が必要となる。デジタル化への完全移行は5年後ということになるが、今、共同アンテナの設備で見ているわけですが、共同アンテナの改修にはお金がかかる問題なので、行政とNHK、アンテナ共同組合3者と相談する問題ということで、方向性がまだ見えないと聞いていましたのでこのことについて、行政としてどのようなことを考えているのかお聞きしたい。

○企画調整部長（松本恭博） 国の方針でアナログからデジタルに切り替わっていく。デジタルに切り替わっていった場合に、どこの地域が難視聴になるか、NHKで調査をしている状況です。直進性が強くなってくるので、地形的な問題、市街地で言えば、建物の影響が考えられます。地形的な問題でいえば、八幡地区、平田地区の一部に電波障害があるとNHKから聞いている。このエリアであれば見えるだろうというところまで調査は進んでいる。見え

ない地域をどうするかということについては、国の大方針で電波を切り替えるので、放送事業者（国）が、どういう対応を取っていくのかが見えていない。この部分がこれからの議論になっていく。20年度の酒田市重要事業要望の中にも入れていて、国や放送事業者に対して、どういう考え方で行くのか、どういう支援ができるのかを明示してくださいと。そうでないと行政としてどうするかということをお話しできる状況にはありません。市街地における建物の影響で障害が起きる。従前はアナログでも障害が起きており、建物を設置している事業者が、共聴アンテナ等で責任をもって電波を配信する手立てを講じている。アナログ共聴アンテナでデジタルの電波は受けられない。切り替えをしなければならない。建物の設置者の責任で切り替えなければならないものですので、これについては、公共施設の電波障害には今年度調査をして、どこまで影響があるのか調査をしていくことにしています。公共施設については、これから議論になっていく。影響があるのか無いのかの調査をやっているところです。東北電力については、送電線等が影響ある。東北電力では4年かけて調査している。会社会社によって違う。公共放送ということで、NHKにはエリアを確定して2011年7月までには手立てができるようお願いしている。

○部会長（齋藤成徳） そのほかございませんでしょうか。

○委員（齋藤藤八） 農林業について、林道の整備や作業道の開設があるわけですが、現在ある農林道は、完全に近いほど整備されていますが、林道については開設してから、何十年もたっているところがある。管理体制が地域の受益者だけで管理できる状況にはない。これも高齢化で廃れていく。最近杉も需要が多くなったと聞くが、今のところは手つかずの荒れ放題の山がある。八幡地域も農林業が振興しないと商店街もぱっとしない。集落営農の問題もあるが、今では余った労力を公共事業に日雇いで提供してきた。公共工事も40%、50%削減されたということで、余った労力を提供する場もない。一向に景気が良くならない。商店街もまったくダメということで、農家、農林業が振興しないと地域の景気はよくなる。まったく実感している。林業に目を向けて林道の整備をどこをどうもっていくのか。林道は営林署と併用林道になっていることが問題になっている。行政にお願いしても併用林道なので自分方ではできないという。営林署に行けば同じように逃げる。今は酒田営林署がなくなったので持って行くところがない。地元では使用するので管理しなければならない。併用林道の問題は、行政で管理ができるような体制はできないだろうか。酒田市になったので区域が広がったことにより、置き去りにされるような心配を地元で持っている。その辺を明確にして管理体制をやるべきと考えている。昔の開拓道路も管理されていない。林業の振興

を考える場合、かなりお金をかけて道路を作ったのに管理者がいないため、荒れ放題になっている。入り口のところに橋があるが今にも落ちそうになっている。現場を行政から調査してもらった。工事に対する30%の補助はあるが、地元でやるしかないと言われた。落ちそうになっているが交通制限もしていない。もし事故でもあったら、その責任はどうなるのか。勝手に通行止めにするわけにもいかない。苦勞している。新しく開発するのも良いが、現在ある農林道を見直すべきものとする。

○部会長（齋藤成徳） 関連があると思いますので、日下部委員お願いします。

○委員（日下部仁司） 目標数値、5年後、10年後の数値が出ているが、3年先もなかなかわからない中で、どのように出したのか教えていただきたい。木材の生産量、漁獲量もどういうことを想定して出したのか教えていただきたい。林業について、地域材を使ったプロジェクトについてもすべて載っていますので、この案については大賛成です。また、この中で地域の業者も入れながら、地域の材を利用していただかないと森林組合だけではできない。ぜひ、進めていただきたい。バイオ、エタノールというこれからのエネルギーですが、多収量水稻の他に何かあるのか伺いたい。林道は、市の管理だと思います。作業路は地域住民の組織体が管理していると理解している。このように材が安い。45年から50年で、ある程度間伐してできた山であれば、何とか補助金と合わせてやれば、中にはお金の入る組織体もある。そういうものを利用しながら、作業路や橋などを作っていただければと思う。伐採の30%が間伐率でやっている。継続して道路を管理していくとなると地元の組織体で組合を作りながら、管理してやっている作業路もある。情報を聞きながら市で面倒を見てもらえるのであればありがたいと思う。知恵を出し合ってやっていった方が良いと思う。

○農林水産課長（後藤登喜男） 木材素材の生産量については、概ね毎年200 m³の増産を見ている。外材の価格が高騰していることと、地球温暖化対策として、国も国産材に力を入れている。平成19年度からやまがた緑環境税も導入され、酒田材の活用施策もやっていきますので、毎年200 m³、間伐材を含めた素材が生産できるものと考えたところです。5年後は、5,000 m³、10年後には、間伐の成果も出てくるので、確実に200 m³は、確保できるだろうと考えている。漁獲量については、沈下コンテナの影響があり、漁獲量が減っていましたが、平成18年度に撤去が完了しましたので、好天の影響もありましたが、平成18年度後半は水揚量が前年より大幅に増えています。毎年20 tの増を見込んでいる。補助事業等で整備した林道については、合併後、すべて酒田市の管理になっている。全部で77路線あり、延長も146 kmになっている。管理だけでなく、舗装、開設含めて5路線ほど実

施中となっている。林道整備を行うことは、山の価値が上がるということですので、計画を組みながら実施していきたいと思っている。併用林道は、国有林道で作って併用、民有林道で作って後で、併用にするなどの名目でやっている。国と協定書を結んでいるわけなので、国も勝手に維持管理、市が勝手に維持管理というわけにはいかない。協定書を見るとむずかしい。国有林の伐採と造林が入っている場合は、積極的に維持管理をするが、それがなくなるとほとんど管理されないのが現状である。今後、協定書の中身も含めて、計画的な管理ができるように国と協議していきたい。開拓道路については、戦後に開拓ということで桑園を作ったところに取り付け道路として作ったのが開拓道路の名残であり、その間に構造物があって古くなって危険になっている状況だと思うが、それを整備するための開拓という名称の付く補助事業がない。管理主体も明確でない。受益地、土地改良という種目があるが、地目が林道になっていれば、森林地域活動支援事業があり、管理が地元、受益者が管理するものであれば、h aあたり5, 000円の草刈などに補助がある。これが周知されていないとすれば地元団体に対してPRに努めていきたい。

○部会長（齋藤成徳） 全体的な事項でも良いのでお願いします。

○委員（星川 功） 産出額の10年間の20億円想定はあり得るだろうか。複合という言葉も入っているし、バイオエタノールの話もあるので、そういう状況で、そろばんが弾けるのかも知れない。浜中、袖浦、西荒瀬の砂丘地をどう見るかという文言が見えないような気がする。園芸分野、米、大豆で20億円を増やしていくのは良いが、そういう分野をどうするかという10年間の取り組みが見えない。転作田はバイオエタノール、大豆などの取り組みを集落営農でやっていけば良いと思うが、畑の遊休農地などを土地利用と合わせてどうするか。食育は料理の仕方を教えていくところからの食育で良いのか。アレルギーの親子会があり、いちご狩りをした。果物だけはアレルギーないとリーダーの人が話しをしていた。地域挙げて、遊休農地を定年の人たちを連れてきてIターン、外からもってくるもの、子どもたちのための食育と合わせた楽しい生き方、農家と農家以外の人が組合せするようなロマン的なものの謳い方をしたらどうだろうか。農協も金融機関と営農機関を分離しようとする動きがある。そういう施策が進んでくるようだ。生産流通などは地域に密着しているわけなので、共生という言葉で地域興しが出来ればよいのではないか。そういうことが出来れば、住民と一緒にやることで、市民から理解されるようなことが必要ではないか。七窪の農業砂丘試験場がどんどん縮小になって今は対策室となっている。昔は、酒田市と合併する前に袖浦村、西郷村は貧しかった。砂丘は不毛の地ということで、漁業をしていた。昭和10年ご

ろ県に陳情して、砂丘で取れるものをしてくれとお願いして、作ってもらったのが試験場である。庄内柿とかネギ、砂丘地の作物が開発されてきた。今、ようやくいちご「おとめ心」が地域で出来上がって、はじめて東京に出荷されるようになった。砂丘地、園芸などを複合でやろうとすれば大切であると思うのですが、少し国、県などの行政の予算が縮小されることによって、やめるのではないかという状況もあるようだ。県と市とか、農協と市が一緒になった農政をやるとかという考え方もあるようですが、普及するための営農指導員に対する予算が、農産物の予算と普及センターの予算と技術の予算を分散しないやり方にすべきではないのか。バイオセンターの役割はどういうものだったのか。これまでの実績を評価して、これからどうなるのか。農協も含めて分散していることが無駄ではないのかと考える。重点項目として事業を謳うのではないが、そういうことを考えて、具体性を市民に理解されるような謳い方をしたら良いのではないか。バイオセンター、県の試験場についても少し、検討しながら対応してもらいたい。土地と人はまだいます。農作業をやっていく人は、これから高齢化になって、施設に入れながらやっている人もいます。80歳、90歳の高齢者を見ながら、60歳台の人が農業をやっていくのはたいへんなので、20億円を上げるのはむずかしいのではないかと感じる。そうならないような具体的なことを描いてほしい。

○農林水産課長（前田茂実） 農業産出額の算定の考え方ですが、米の産出額は減るだろう。その分を園芸や加工等で伸ばしていこうという考え方です。袖浦に学んで庄内みどりも頑張っていこうということです。砂丘農業をどう考えるかという中で、これ以上耕作放棄地を増やさない。耕作できる農地を確保していく。耕作できる農地を確保していこう。耕作振興ということで、各部会のやる気のある人たちの要望に応じていくような施策を継続するし展開していく。そういうところが見えないということであれば、文字を大きくして表現を改めるなどして字句の修正をしていきたい。食育については重要な意味を持ちます。農業と食の関わりを通じながら、農業を発展させていきたいと考えています。営農指導についても農協と足並みを揃えて誘導する施策を展開していきます。JAにおける金融と営農の分離については、共生と協働の地域興しを担うJAでありたいということですので、行政としてもワンフロア・ワンストップ機能を強化することで、関わりを深めるまちづくりが必要になってくるものと思います。ワンフロアと同じ場所に集まるというような感じがしますが、別々の場所であっても志が同じであれば、ワンフロアと同じではないかと考えております。体制強化という部分の仕事が出来れば補充していきたいと思います。庄内砂丘試験場は、庄内産地研究室という名前で頑張っている。県内35市長村長が集まる会議に地域のこ

だわりの一品として「おとめ心」を酒田の代表として、県知事や各市長村長から食べていただいた。たいへん好評だった伺っています。産地研究室のありようについては、酒田市の重点要望事業として継続はもちろんのこと研究テーマも明示して、継続、発展させていただきたいということで頑張っています。バイオ研修センターについては、これまで大きな成果を上げている。研修機能も一定の評価を得ている。これからについては運営委員会もあるので、今回提案をいただいた視点を大切にしながら、検討していきたいと思います。種苗供給という情報もあるようです。日下部委員よりありましたバイオエタノールについては、全農庄内を中心に研究中です。原材料として多収の水稲北陸192号とか、稲わら、籾殻を使ったもの、牧草（ソルガム）、セルロース、木屑からも出来ると聞いていますので、これから研究が進んでいくものと考えている。商工観光部でも企業誘致と言う観点からバイオエタノールについて調査検討しています。庄内の豊かな土地と技術のある人がいっぱいいるので、そういうところを生かして農業を発展させていきたい。1年に1%の生産量を伸ばすという厳しい目標ですが、頑張っていこうという決意で載せておりますのでご理解をお願いします。

○部会長（齋藤成徳） はい、ありがとうございました。

○商工観光部長（高橋清貴） バイオエタノールについては、世界的な規模で急速に進んでいる。結果として、食用油、オレンジの高騰など、アンバランスが生じている。国策としてもバイオエタノールが桁違いの生産量が求められている。本地域は稲作地帯ということで、米を使ったバイオエタノール、米部分を使った研究、実用化は各地で進んでいる。本市ではセルロース系、米ではなくて稲わらを処理して、エタノールの実用化に持っていければと考えています。具体的な動きも少しずつ芽生えつつある。そうすると産業の活性化、プラントが出来れば、産業の活性化、雇用にも結びつく。そういったチャンスを逃さないように努力して将来につなげていきたい。

○部会長（齋藤成徳） はい、ありがとうございました。その他、総体的な面で何かないでしょうか。

○委員（齋藤藤八） 第三セクター組織強化があるが、全国的に見ても評判がよくない。ある地域では行政の荷物になっているとも聞く。酒田市でもいくつか第三セクターがあると思うが、具体的にいうと組織の強化は、どのようなことを言っているのか。昔ですと赤字を行政から補填していただけたという考え方を持っている人がいますが、現在はそうではない。これから組織を強化するとすれば、行政としてどういう取り組みを考えているのか教えていただきたい。

○観光物産課長（羽根田 篤） 第三セクターは、行政を頼っていると言われている。本市の第三セクターは、自立してやっている会社があるのも確かです。総合計画の中では自立できる力を付けることが一番です。実際にある程度自立が出来ているという会社とそうでない会社があるようなので、自立できているところについては、これまで以上に頑張ってください。弱い会社については、てこ入れをするということになるかと思います。行政としては金銭面でのてこ入れということでは考えておりません。実際の運営のやり方について、しっかり経営する努力をしていただくことを考えていきたい。具体的な部分は見えないということです。

○委員（武田恵子） 中小企業の福利厚生は大企業に比べ立ち遅れているということが書いてあって、勤労者共済支援と特筆していただいていることに感謝します。労働組合は、雇用者と話し合いの場を持って、就労環境の改善はできるが、女性労働者の環境との兼ねあいがあるが、中小企業だと話し合う場がない。そこに行政の支援があつてできるのではないかと思います。応援をよろしくお願いします。高齢化によって農業、漁業、林業、第1次産業の就業者減っていくところへの補充はむずかしいのではないかと。企業だけでなく、組合がないところへの就労への促進もこういうところからもできるのではないかと思います。若者の意識革命も必要だと思うが、行政と学校と地域が一体となつて、こういうことができればと思います。観光面で酒田は良い所だと思います。歴史と文化の織りなすまちということで、関西文化との交流、長い歴史、西廻航路もあつて、関西文化との交流があつたことをもっとアピールしても良いのではないかと思います。市民総ガイドになるとしても、皆が誇りに思い話せるまちであつて良いのではないかと感じました。飛行機の関西便の利用も増えるだろうし、そうなれば、商業も地元の財布だけでなく、他所の財布を当てにできるのではないかと。他所から人がくるといことは活性化につながると思います。平泉、奥州文化との交流ももう一つあるのではないかと思います。酒田のまちの歴史を考えた時にその辺もアピールしてはどうだろうか。角館は小京都でアピールしているし、平泉に修学旅行、花巻に修学旅行に行っても全国にアピールしていて、こういうことが出来るということ産学一体とか地域上げてアピールしています。花巻では体験学習ができるので、修学旅行にぜひおいでくださいとパンフレット、ホームページも含めていろいろなものが出ている。そういうことを酒田市はアピールした方が良いのではないかと。酒田を拠点として鳥海山、飛鳥、羽黒山を周ってくる。酒田市を中心に周るルートがある。最上川を下ってくる芭蕉ルートもある。新潟から来る芭蕉ルートもある。広い意味でいろいろな人からきていただいて、酒田で食べてもらい、食べ

物もおいしいと言われているので、良い物を取り寄せしてもらっても良いし、また来てもらっても良いし、そういうような人の動きを作っていければ、良いのではないかと思う。酒田港のアピールは、酒田市だけでなく、県の考え方だと思います。県がどう考えるかですが、山形県の港だということをアピールして、県全体に働きかける必要があると思います。

- 観光物産課長（羽根田 篤） 観光面のアピールということで参考になりました。少し恥ずかしいところもあるようですので積極的に出していきたいと思います。ガイドは弱い点だと思います。300万人を超える観光客が訪れているが、ガイドの姿はほとんどない状態です。施設の中に入るといいますが、これについては、きちんと育成していきたいと考えています。特に団塊の世代の活用も考えていきたい。

3. その他

- 部会長（齋藤成徳） その他として委員の皆さんから何かないでしょうか。なければ事務局から何かございますか。
- 事務局（阿部雅治） 今後のスケジュールについて説明。－ 省略 －
- 部会長（齋藤成徳） 以上を持ちまして今日の産業部会を終了いたします。どうもありがとうございました。

閉会 午前 11時35分